

第1学年 家庭・家庭基礎
「消費行動と意思決定 ～自立した消費者になるために～」

1 学校名・職氏名

野田学園高等学校 教諭 吉岡 優子

2 生徒

1学年 普通科 19名

3 学習指導案

(1) 題材名

消費行動と意思決定～自立した消費者になるために～

(2) 題材の目標

情報通信技術のめざましい発展や通信システムの整備により、商品やサービスの販売方法が多様化し、特に無店舗販売であるインターネットショッピングの市場が急速に発展し、利用者が急増している。しかし、生徒がその利用について考える機会や教育を受ける機会は、十分であるとは言えない。インターネットショッピングは便利な一方で、店頭での買い物に比べて消費者問題の発生率が高く、メリットやデメリットをしっかりと理解し利用することが重要である。題材を通して、現在営んでいる消費生活に問題意識を持ち、主体的に行動することや批判的意識を持つことの重要性に気付かせ、よりよい意思決定を行うために必要な力を養いたい。

(3) 題材設定の意図

① 生徒観

生徒は本時まで、高等学校家庭科において「契約について」、「消費者の権利や責任」などの知識や、契約の疑似体験などを通して、商品やサービスを選ぶ際の意思決定のプロセスなどを理解している。また、教科情報においては、インターネットショッピングサイトの安全な利用についての知識などを習得している。

また、事前アンケートを行った結果、インターネットショッピングを利用し商品を購入したことがある生徒は、ホームルームの約8割を占め、生徒たちの消費生活においてインターネットショッピングの利用は欠かせないものとなっていることがわかった。しかし、その消費行動における意思決定は「価格」や、「見た目」を重視したものとなっており、失敗経験のある生徒も少なくない。また、問題が起きた場合の対処法としては、「あきらめた」、「何もしなかった」という消極的な態度が多く、消費者の権利や責任を意識して行動している生徒はほとんどいなかった。今後高校を卒業し一人暮らしをする際には行動範囲も広がり、自分の意思で商品やサービスを購入する機会がさらに多くなる。そのため、様々な問題やトラブルに直面する機会も多くなることが予想される。題材を通し、自立した消費者となるために必要な知識・考察力・判断力を養い、主体的で豊かな消費生活を営むための意識の向上を図りたい。

② 教材観

現代の消費生活の一例として「インターネットショッピング」を取り上げ、調べ学習を主としたエキスパート活動を通して、多角的な視点からその特徴を捉えさせた。また、社会経験が乏しくインターネットショッピングを経験したことのない生徒もいるため、できるだけ具体的にイメージしやすいようにDVD視聴を取り入れて

いる。それらの活動を通して得た知識を基に、インターネットショッピングのメリットやデメリットについて KJ 法を用いて整理し、その特徴の 1 つに着目し、問題を未然に防ぐ方法やよりよい活用法について、グループで考え全体に提言させる授業展開としている。その学習過程において、消費者被害に遭わないだけでなく消費者被害や問題を未然に防ぐことのできる賢い消費者となるよう「消費者の権利と責任」を意識させ、自分たちの意思決定が、どのような結果に結びつくかをしっかりと考えさせ、論理的な思考力を養いたい。

③ 指導観

現在、自分たちがどのような消費行動を行っているかを理解させることや、消費生活の現状を考え意見を述べ合う活動を通して、現代の消費行動の課題を認識させたい。また、様々な角度から現代の消費生活の特徴を捉え、その特徴をよりよい方向へ導く方法を考案し全体に提言することにより、一人ひとりの消費行動は一見小さく見えるかもしれないが、大きな社会参加であること、また社会に影響を与えることに気付かせ、生活の中で実践する態度を養いたい。さらに、調べ学習や共同して課題の解決を行なう中で、自ら調べることや他から学ぶことの重要性に気付き、主体的に学習に取り組む姿勢を身に付けさせたい。

(4) 単元の評価基準

関心・意欲・態度	工夫・創造	技能	知識・理解
消費行動や消費者の権利と責任などに関心を持ち、消費生活の充実向上を目指して意欲を持って主体的に学習活動に取り組もうとしている。	消費生活の課題を見出し、問題解決を目指して思考を深め、適切な判断をし、理解したことを他者に工夫して表現し説明することができる。	消費者の権利や責任を意識し、主体的に考え発言し、行動するために必要な基礎的・基本的な技術を身に付けている。	自立した消費者としての役割を理解し、家庭や地域の生活が充実向上するため問題解決に関する具体的な知識・技能を身に付けている。

(5) 学習計画 (全 6 時間)

I 現代の消費社会

① 契約と契約トラブル (1 時間)

～契約クイズを通して契約に対しての認識を明確にする～

② 消費者をめぐる問題 (1 時間)

～新聞記事等から消費者をめぐる問題や問題が起こった際の解決策を考える～

II 消費行動と意思決定

① 意思決定をしよう (1 時間)

～1人暮らしの家探しを通して契約の重要性や消費者の意思決定を見直す～

② 消費者の権利と責任 (1 時間)

～商品を選択することを通して消費者として私たちにできることは何か考える～

③ 自立した消費者になるために (2 時間) (本時 2 / 2)

(6) 本時案

① 目標

- ・インターネットショッピングの事例を通して、現代の消費生活の特徴や課題を理解する。
- ・自立した消費者として適切な消費行動ができるよう、多様な情報や価値観の中から適切な意思決定をすることの大切さに気付く。
- ・消費者の権利と責任を自覚し、自らの消費行動において社会的責任を果たす姿勢を養う。

② 準備

ふせん、ペン、大判用紙、発表原稿、パワーポイント教材、プロジェクター、電子黒板、指し棒、DVDプレイヤー、DVD※1、ワークシート①「エキスパート活動資料A～E」※2、ワークシート②「自立した消費者になるために」、ワークシート③「エキスパート活動・ジグソー活動進行表」、ワークシート④「学習振り返りシート」

※1 DVD「もしあなたが消費者トラブルにあったら —消費者センスを高めよう—」：制作／（公財）消費者教育支援センター 著作／消費者庁

※2 エキスパート活動資料：「平成27年版情報通信白書」より抜粋（出典：総務省 HP：<http://www.soumu.go.jp/johotsusintokei/whitepaper/index.html>）

③ 学習過程（本時1／2）

	学習内容	生徒の学習活動	指導上の留意点
導入 (5分)	課題を確認する。	・エキスパート活動の班で着席する。	・前時にワークシート①を配布しておく、課題や疑問点などを調べてくるように指示しておく。
<p>（課題）自立した消費者として安全で快適にインターネットショッピングを利用するために、私たちはどのように消費者の権利や責任を果たしていかなければならないか提案をしよう！</p>			
展開① (20分)	本時の課題を確認する。	・本時の課題を理解する。	・ワークシート②を配布し、学習の流れを説明し、本時の学習内容を、次時の課題解決に生かすことを知らせる。
<p>（本時の課題）インターネットショッピングの利用状況や人々の意識調査から、多角的な視点でインターネットショッピングを捉え、課題解決のための知識を習得し消費生活の課題を考える。</p>			
	エキスパート活動を行う。	<ul style="list-style-type: none"> ・役割を分担し、ワークシート③の進行表に従い進行する。 ・調べ学習の中で、班員に伝えたい内容をワークシート③に2分でまとめる。 ・各自で調べてきたことを、班で意見交換し、共有した内容をワークシートに記入する。 ・エキスパート活動の振り返りを記入する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・進行表を配布し、司会者を決めさせ、進行について説明する。 ・課題解決のために必要な情報を意識した発表となるよう注意させる。 ・わかりやすく発表するためのポイントを前時に押さえておき、効果的な発表となるようにする。 ・情報を共有する中での疑問点を記入させ、次時までには調べるよう促す。
<p>【エキスパート活動】(A) インターネットショッピングでよく購入されている商品とその理由 (B) インターネットショッピングを利用しない理由 (C) インターネットショッピングを利用する理由 (D) インターネットショッピングでよく起きているトラブルとその原因 (E) インターネットショッピングの契約の取り決めとトラブル時の対処法</p>			

<p>展開② (20分)</p>	<p>ジグソー活動を行う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートを持ち、ジグソー活動の班で着席する。 ・エキスパート班で話し合った内容を2分ずつ報告し、情報を共有する。 ・ワークシート②にエキスパート活動の報告内容やその中での気付き・感想を記入する。 ・インターネットショッピングのメリット、デメリットを考え、ワークシートに記入する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・席を事前に示しておき、スムーズに移動ができるよう促す。 ・共有した情報を、各班において責任を持ち報告するよう促す。 ・課題解決に必要な情報をワークシートに記入するよう指示する。 ・次時はインターネットショッピングの特徴を班ごとに捉え、本時の学習を生かすことを伝える。
<p>まとめ (5分)</p>	<p>振り返り</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシート②を記入し学習を振り返る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・振り返りシートにまとめさせる。

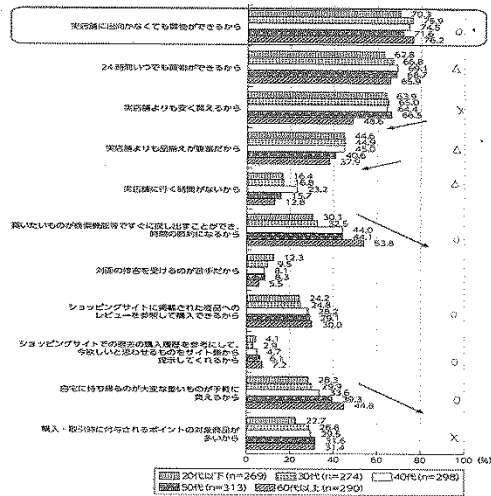
《資料》

【ワークシート①「エキスパート活動資料C」】

エキスパート活動 C 年代別のインターネットショッピングの利用状況

総務省発表「平成 27 年版 情報通信白書」より抜粋

図表 2-2-4-2 ネットショッピングを利用する理由(年代別)



(出典)総務省「社会課題解決のための新たなICTサービス-技術への人々の意識に関する調査研究」(平成 27 年)
「ネットショッピングを利用しない」と回答した人にもその理由を尋ねたところ、やはり年代によって差が見られた。60代以上では、「決済手段のセキュリティに不安があるから」、「ネットショッピング事業者の信頼性が低いから」、「実店舗で実物を見たり触ったりして購入したいから」を理由として挙げる人の割合が、他の年代に比べて顕著に高い。アンケートで「利用しない理由」の候補として提示した 15 項目中の 10 項目で、60 代以上のポイントが最も高くなっている。

活動: ネットショッピングを利用する理由について年代別の特徴を調べてみよう。

20代の人々 最も割合が高い理由「実店舗に出向かなくても買物ができるから」
最も割合が高い理由「ショッピングサイト上の過去の購入履歴を参考に、今欲しいと思われる商品の購入を提示してくれるから」(60代以上も除く)
60代以上 どの年代より最も高い理由は「項目がある例、時間や距離を省ける、簡単に行ける、重い荷物もたがなくてもいいなど、60代以上の人の弱点を補ってくれるもの」と思っている人が多い。
50代の人々 どの年代より最も高い理由は「購入・取引時に付与されるポイントが貯蓄しやすいから」、「実店舗よりも安く買えるから」と思っている人が多い。
40代の人々 どの年代より最も高い理由は、「時間」と「品揃え」のことで「40代の人には昼間などの来店が難しい時間帯に行くことが難しいから」と思っている。
30代の人々 どの年代より最も高い理由は「ほしい物と割合が同じくらいは、「実店舗に行くかなくても買物ができる」、「実店舗よりも品揃えが豊富」なところ。
10代の人々 どの年代より最も高いのは、「お家の持ち受けのものが買いたいから」で、若い世代には馴染みの人々や親戚の持ち物など、年代が若い人々が多い。

班員名: 河野・板橋・清水・倉重

わかったこと、学んだこと

・若い世代の方が仕事などでネットショッピングで買う理由も多々あることと、若い世代は、年代別の人が買いたがる理由も多々あることを知りました。

・20代の人が一番検索を受けやすいのが「若年層」で、年齢が上がると、在庫切れも減ることになりました。

わからなかったこと、疑問に感じたこと

利用者の割合はどの年代が70代の方が高いことと「ネットショッピング」と「利用しない理由」を比較して利用しない理由が最も多いこと。

【ワークシート②「自立した消費者になるために」】

家庭基礎 (消費生活) 自立した消費者になるために

(課題) 自立した消費者として安全で快適にインターネットショッピングを利用するために、私たちはどのように消費者の権利や責任を果たしていけばよいか具体的に考え提案しよう！

【課題解決に向けての取り組み】

- 自分が担当したテーマの資料を読み、わからない点や疑問に思った点を調べてみよう！
- 担当したテーマについて、どのような考えや意見があったかグループで共有しよう！
(※各自の資料に不足していた情報や、新たな発見を書き込もう)

(3) ジグソー班になり、それぞれの資料について報告しよう！

<p>A: よく購入されている商品とその理由</p> <p>旅行関係 家具 家電 食品 本類 電子器機 化粧品 送料の安いものが買える 安いもの</p>	<p>B: 利用しない理由</p> <p>どの商品にも送料がかかる理由 「送料が安いから利用したいけど送料が高いから」 送料が高いから 送料が安いから 送料が安いから 送料が安いから</p>
<p>C: 利用する理由</p> <p>① より早く安く買える ② 時間や場所 ③ 色々な商品が買える ④ 送料が安い ⑤ 色々な商品が買える ⑥ 色々な商品が買える</p>	<p>D: よく起きているトラブル</p> <p>利用したい商品が売切れている → 在庫がない 商品が届かない → 配送が遅い 商品が壊れている → 梱包が甘い</p>
<p>E: 契約の取り決めとトラブルの対処法</p> <p>利用規約の読み取り 利用規約の読み取り 利用規約の読み取り 利用規約の読み取り 利用規約の読み取り</p>	<p>(気持ち・感想)</p> <p>利用規約の読み取り 利用規約の読み取り 利用規約の読み取り 利用規約の読み取り 利用規約の読み取り</p>

(4) グループで共有した情報を踏まえて、インターネットショッピングのメリットとデメリットについて改めて考え、特徴を捉えよう！(2次時)

<p>メリット</p> <p>商品の種類が豊富 送料が安い 時間や場所 色々な商品が買える 送料が安い 色々な商品が買える 色々な商品が買える</p>	<p>デメリット</p> <p>送料がかかる 個人情報を盗まれる 利用規約が複雑 商品が届かない 商品が壊れている 商品が届かない</p>
---	---

(5) 自立した消費者として、安全で快適にインターネットショッピングを利用するために、私たちはどのように消費者の権利や責任を果たしていけばよいか具体的に考え提案しよう！

(発表原稿例)

1 提案の模範	○私たちの班は、インターネットショッピングの
模範	※表1メリットもしくはデメリット などの (上記に上げたメリットやデメリットの項目など)

に着目して、インターネットショッピングを安全に快適に活用する方法について考えました。

2 みんなへの提案 ※以下の提案の選択しよう

- 「インターネットショッピングを快適に上手に活用する方法」
- 「インターネットショッピングによる消費者被害やトラブルを防ぐ方法」など

3 消費者の権利と責任

○その際に (※意識した消費者の権利や責任に○をつけよう)	
消費者の権利	生活のニーズが保障される権利 安全である権利 知らされる権利 選択する権利 意見を反映される権利 保障を受ける権利 消費者教育を受ける権利 健全な環境の中で働き生活する権利
消費者の責任	主張し行動する責任 連帯する責任 批判的意識を持つ責任 社会的弱者への配慮責任 環境への配慮責任
その他	(※自分たちで考えてもよい)

提案①「
例えば () を行う予定です。
提案②「
例えば () を行う予定です。

4 まとめ

以上のことを行うことにより (こうなる!) どんなトラブルが減るか、どんな良いことが起こるかなど

(6) 他の班の発表を聞き、提案に対して感想を記入し、テーマについてクラス全体で考えよう！(別紙)

(7) 他の班の意見を聞き、これからどのように意識インターネットショッピングを活用していくか、気付いたことや考えたことなど自分の考えをまとめよう。(別紙)

【ワークシート③「活動進行表」】

エキスパート活動 進行表 (12分)

私たちのグループでは (○にチェック)

- A班 インターネットショッピングでよく購入されている商品とその理由
- B班 インターネットショッピングを利用しない理由についての年代別の特徴
- C班 インターネットショッピングを利用する理由についての年代別の特徴
- D班 インターネットショッピングでよく起きているトラブルとその原因
- E班 インターネットショッピングの契約の取り決めと被害やトラブルが起きたときの対処法

1 要点をまとめよう。(2分) ※発表する原稿を考えよう

60代・70代・80代・90代・100代
50代・60代
40代・50代
30代・40代
20代・30代
10代・20代

2 要点を順番に発表し、資料に不足していたことや新たな意見を加えよう (各2分) 計8分

※資料に直接書き加えてもよい。
発表の順番は発表し、資料に不足していたことや新たな意見を加えよう (各2分) 計8分

ジグソー活動 進行表 (10分)

1 要点をつかもう (各2分) 計10分 ~それぞれのエキスパート資料の説明をしてください~

- A班 インターネットショッピングでよく購入されている商品とその理由
 - B班 インターネットショッピングを利用しない理由についての年代別の特徴
 - C班 インターネットショッピングを利用する理由についての年代別の特徴
 - D班 インターネットショッピングでよく起きているトラブルとその原因
 - E班 インターネットショッピングの契約の取り決めと被害やトラブルが起きたときの対処法
- ではA班「〜(上記を述べる)」からお話をします。※ワークシートにメモをとる
○説明でわからなかったことはないですか
※その後B班〜E班の順に説明を行う。

2 課題について考えよう。

(課題) インターネットショッピングのメリット・デメリットについて考えよう。

※ワークシートにメモをとる

(課題) 自立した消費者として安全で快適にインターネットショッピングを利用するために、私たちはどのように消費者の権利や責任を果たしていけばよいか具体的に考え提案しよう！
について考え、意見をまとめよう。

【参考「事前アンケート」】

家庭基礎 消費生活 消費者教育 事前アンケート

1 今、欲しいものはありますか?あれば下欄に記入してください。

スマートフォン、タブレット、パソコン、ゲーム機、カメラ

2 消費者として契約をしたことがありますか? YES NO

3 次のうち契約とはどれだと思いますか?記号に○をつけましょう。

- ①: インターネットでチケットを購入する
- ②: コンビニエンスストアでジュースを買う
- ③: 街角でアンケートに答える
- ④: 友達と遊ぶ約束をする
- ⑤: レンタルショップでDVDを借りる

4 「クーリング・オフ」について知っていますか?適する記号に○をつけましょう。

- A: 内容や方法を詳しく知っている。
- B: 内容を知っている。
- C: 名前だけ知っている
- D: まったく知らない

5 次の場合、契約を解除することはできると思いますか?その理由も教えてください。

通信販売で、2980円の化粧品を購入した。少しだけ使ってみたら、肌に合わなかったので返品したい。購入してから10日後であった。
→ できる できない
(判断した理由は何?)
10日後は返品不可

6 インターネットで買い物をしたことがありますか?適する記号に○をつけましょう。

- ①: よく利用する
- ②: 数回利用したことがある
- ③: 一度もしたことがない

(ア、イと回答した人は、何を購入しましたか?、またその感想を教えてください)

洋服、化粧品、送付業者の信頼度を探るアンケート

7 商品を購入したり、契約を無理にさせられた時など消費生活においてトラブルが起こった場合どうすればよいか知っていますか。知っている人は具体的に書いてみよう。

A: 知らない 知っている


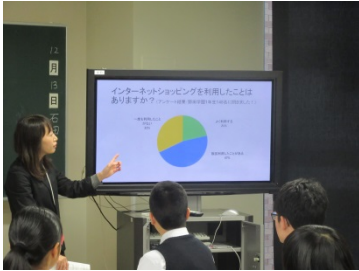
消費生活センターに問い合わせ

8 インターネットショッピングや、ゲームなどの課金などで失敗したり、トラブルになったことはありますか?あれば、どのような内容か教えてください。

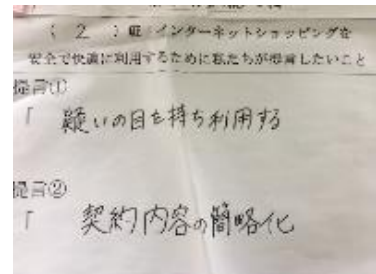
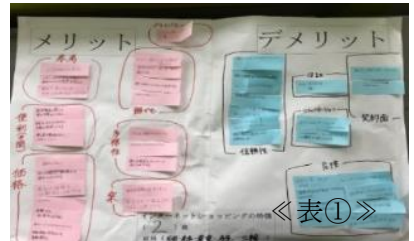
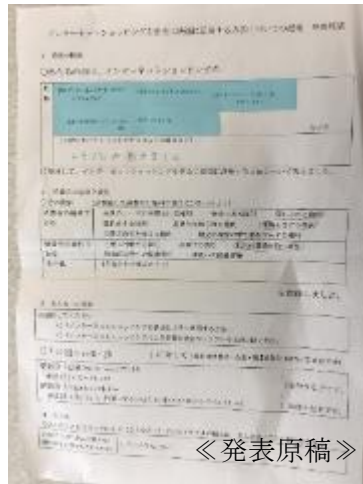
ゲームの課金で、勝手に課金された。とわかった。

あと、別のサイトで買った。とわかった。

(本時 2 / 2)

	学習内容	生徒の学習活動	指導上の留意点
導入 (5分)	本時の目標を確認する。	<ul style="list-style-type: none"> ・ジグソー活動の班で着席する。 ・本校生徒のインターネットショッピングの利用状況や、遭遇したトラブルについて知る。 ・インターネットショッピングの利用が急増しており、身近な問題や課題が生じていることに気付く。  	<ul style="list-style-type: none"> ・欠席者のいる班に配慮する。 ・本校生徒のインターネットショッピングの利用に関するアンケート結果を示し、課題に対する意欲を向上させる。 ・全国のインターネットショッピングの利用状況や消費者問題の相談件数が増加傾向にあることを知らせる。 <div data-bbox="1062 651 1422 853"> <p>インターネットショッピングを利用したことはありますか？ (アンケート結果: 野田学園1年生145名に聞きました！)</p> </div> <div data-bbox="1062 869 1422 1070"> <p>利用者の遭遇したトラブル</p> <ul style="list-style-type: none"> ・画いたらサイズが合わなかったり、写真と色などが少し違ったり、イメージしていたものと違うものが届いた。(21件) ・間違えて違う商品を申し込んだ。 ・届んだのと違うものが送られてきた。 ・ゲームを買ったら、カセットが汚れていた。 ・だまされてお金をとられ、物は送られてこなかった。 ・予約していた本が、発売から4日後に来たので予約した意味がなかった。 ・10円のフィギアを買ったら、送料が750円と高かった。 </div> <div data-bbox="1062 1086 1422 1272"> <p>インターネット通販の相談件数(全国)</p> </div>
<p>(課題) 自立した消費者として安全で快適にインターネットショッピングを利用するために、私たちはどのように「消費者の権利や責任」を果たしていかなければならないか提案をしよう！</p>			
展開① (10分)	インターネットショッピングの特徴について理解する。	<ul style="list-style-type: none"> ・DVDを視聴し、インターネットショッピングのメリット・デメリットを考え個人で意見を書き出す。 ・グループごとに、声を掛け合いながら、意見を分類し、表に意見を貼り付けグループ分けしていく。 ・グループ分けした意見に題目をつけ、インターネットショッピングの特徴について理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・DVDを視聴させテーマに対する考えを引き出しやすくする。メリットは赤、デメリットは青の付箋に記入させる。 ・表に意見を貼り付ける際のポイントを伝え、インターネットショッピングの特徴をまとめるよう指示する。 ・机間巡視し、題目の捉え方につまづいている班には助言する。

<p>展開② (15分)</p>	<p>課題について話し合う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・特徴の1つに着目し、その特徴を踏まえ、安全で快適にインターネットショッピングを活用する方法について話し合う。 ・発表時の役割を決め、発表原稿や掲示物を作成し発表の準備を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・発表原稿の作成のポイントを通して、消費者の権利や責任を意識させ、社会の一員として安全で快適にインターネットショッピングを活用する方法を考えさせる。 ・班ごとに作成した表①を撮影し、発表の資料としてプロジェクターに投影させておく。
<p>展開② (15分)</p>	<p>各班の提言を発表する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・グループごとにインターネットショッピングのよりよい活用方法について発表する。(各2分計8分) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシート④「学習振り返りシート」に他の班の提案や、提案に対する意見を記入させる。
<p>まとめ (5分)</p>	<p>振り返り。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学習の振り返りをする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシート④「学習振り返りシート」に記入させ学習内容をまとめさせる。



《資料》

【記入例：ワークシート④ 発表メモ及び「学習振り返りシート」】

家庭基礎（消費生活） 自立した消費者になるために

1 グループの発表を聞き、メモをとりましょう。

班	提案	提案に対するコメント
1班	大手企業を利用する	大手企業は本気で信頼できるか どこまで大手か 小企業で、健全に運営しているものは 利用していいか
2班	疑いの目を持ち利用する 契約内容の簡略化	契約内容を簡単にしたら 抜け駆けの運用が起きないか あと、かえってトラブルの元にな らないか
3班	国に信頼できるサイトを提示し 国に消費者に対する補償などを わかりやすく示す法律をつくらう	例えば「国が楽天を承認した ら、楽天のPCに出品している会社の 信頼性はかたはれないか 思われるが、楽天の信頼性はどうか
4班	具体的に商品を見れるように する 小からインターネットに関心教育	見い段階から教育が大切か 高齢者へのインターネットの 利用も大切か

2 学習内容を振り返ろう

評価項目	評価			
①インターネットショッピングの特徴や利用する際の課題について理解できたか。	A	B	C	D
②社会の一員として、社会のために自分たちが実践できることについて積極的に考え、意見を述べる事ができたか。	A	B	C	D
③自立した消費者として、消費者被害に巻き込まれないための知識や考え方を身に付ける事ができたか。	A	B	C	D
④消費者の権利や責任を意識し、主体的に行動し、消費生活に向き合うことの重要性に気付く事ができたか。	A	B	C	D
⑤消費者として、多様な情報や価値観を取り入れ、批判的な意識を持ち情報を判断することの重要性に気付く事ができたか。	A	B	C	D
⑥学習に積極的に参加し、論理的に意見を述べる事ができたか。	A	B	C	D

(評価： A：大変よくできた B：よくできた C：あまりできなかった D：できなかった)

学習振り返りシート

学習で感じたこと、考えたことなどをまとめて、学習を振り返ろう。

①感じたこと・得たこと・学んだこと	インターネットショッピングは、高齢者の買い物における負担を軽減する事ができたり、豊富な商品の中から選べたりするなどメリットも多 くある反面、デメリットも多いため、不足を改善する事が大切だと思った。
②これから個人でやろうと思ったこと、共感した提言について	契約内容をしっかり読んでから契約を結ぶことを心がけたい。 自分が受ける権利は、国や企業が守るという提言が多い。 気がしたのが、自分で信頼できる業者を見つけ、行きたいと確信するまで待つこと。
③わからなかったこと、疑問に感じたこと	高齢者が「インターネット」を使わない理由は、時間のロスか、 不安からというものが多くあること、使う理由で、時間の節約に 役立つと答える割合も高かった。この辺りについて、疑問がわいた。
④反省・感想	まずは自分の「利用」の活動は、とても面白かった。勉強になった。 その後の機会が、多くの教科で設けられるといいと思った。

【やってみよう！～私の提案～】

○本日の発表を聞き、改めてどうすればインターネットショッピングを安全で快適に活用できるかを考え、提言を記入しよう！

提案「自分で信頼できるサイト、業者を探し、「行きたい店」を確立する」
例えば「私も国でトラブル防止」を行うなどです。
意識した消費者の権利や責任は「批判的意識と責任」
するようになります。
→「頼んだ商品が送られず、返品！というトラブルが減る」

4 指導上の工夫

エキスパート活動においては、資料を事前に配布し、家庭学習において各自で分析し疑問点等を調べ、授業内で共有し考察しエキスパート性を高める形式をとった。一人ひとりが課題を解決する主体としての意識を持ち、自ら進んでその消費生活に必要な情報を収集する過程において、様々な発見と高校生らしい独自の意見や考えを見出すことができ、課題の解決のために情報を収集することの重要性に気付くことができていた。

ジグソー活動においては、エキスパート活動を生かしながら、一人ひとりの意見が反映されるように、KJ法を用いてインターネットショッピングの特徴を捉えさせてから、本時の課題に取り組みさせた。その際に発表原稿の基本の形を提示し、KJ法で用いた付箋を活用した原稿作成を行わせることで、限られた時間内で消費者の権利や責任を意識しながら、確かな根拠に基づき具体的でわかりやすい提言を行えるよう工夫した。また、提言を実現した場合にどうなるかということまでを原稿用紙に設定し発表させ、それらが社会にどのようなプラス面、マイナス面を与えるか原稿作成を通して意識させた。そして、消費者の権利や責任を主体的に果たそうとする態度を養うために、全体へ提言すること、またその提言を聞き、さらに自分の提言を作成させ、提言のみを抜粋したものをプリント配付しクラス全体で更なる共有を行った。

5 成果と課題

(1) 成果

インターネットショッピングの特徴を自らが考え、特徴を捉え発言し情報を共有する活動を通し、自分の意見に自信を持つようになり学習に対する意識が向上し、質問や発表も増加した。また、ワークシート④「学習の振り返りシート」の記述から、イ

ンターネットショッピングだけでなく、普段何気なく行っている消費活動についての関心も高めることができたことが読み取れた。さらに、課題に取り組む中で、消費生活を営む上で消費者の権利や責任を意識し行動することの重要性に気付き、課題解決のための具体的行動をイメージし提案することができており、自立した責任ある消費者としての意識の確立をワークシートの記述から確認することができた。

エキスパート活動の中で年代別の利用状況を分析し、情報を共有したこともあり、学習の振り返りにおいて高齢者や子どもなどを対象とした家族や地域の人々の消費生活についての注意点や、年代別の消費生活に対する啓発についての記述も見られ、生涯を見通した消費生活についても考えるきっかけとなった。そのため、本時の学習活動は「家庭基礎」における「消費者生活の現状と課題や消費者の権利と責任について理解させ、適切な意思決定に基づいて行動できるようにするとともに、生涯を見通した生活における経済の管理や計画についても考えることができるようにする」という指導内容及び目標の達成に近づけたのではないかと考える。

(2) 課題

本時は「安全で快適にインターネットショッピングを利用するために～」との課題を提示したが、多くの班が「安全に活用する方法」についてを提言した。目標を焦点化し、課題を絞ることで話し合う時間を多くとり、より深い考察や創意工夫された発表につながるよう改善していきたい。

インターネットショッピングは日々進化しており、歴史も浅く家庭教育を行う大人たちも、インターネットショッピング市場の急速な発展に十分対応できていないことが消費者問題の発生状況からもわかる。また事前アンケートや生徒の学習活動から、生徒の中には契約や販売についての知識が不十分なままインターネットショッピングを活用していることがわかり、学校教育の中で実践的に教育していくことが今後さらに重要になってくること、またそれを教える教師自身が高い専門性を磨き続けることが必要であると感じ、更なる研鑽を積み研究を行うことが今後の課題となった。

現在、消費生活のまとめとして消費者啓発の標語の作成に取り組ませている。一人ひとりが権利の主体としての意識を持ち、意見を発信することの意味を改めて考えさせ、消費者の権利や責任を意識し、生活の中で実践する態度を養っていきたい。

6 授業検討会での主な意見

(1) 授業実施前に学習指導案の検討を行った際の主な意見

- 高校生だと、意思決定やマーク、地産地消、エシカルそして消費者被害にあわないような選択、そして、次の消費者被害を防ぐ視点も必要。
- 悪質商法に引っかかってもあきらめない、という方に持っていきたい。権利と責任であれば、団結する、というのが大切。
- 通信販売で押さえたいことは、返品についてクーリング・オフが適用されないことや返品特約のことになるので、この辺は伝えた方がよい。

(2) 授業実施後の主な意見

- グループワークで生徒からたくさん意見が出ていた。エキスパート活動が生きていると思う。
- 今回のグループワークではKJ法でメリットについてたくさん出ていたが、デメリットについての提案をした方がよいのではないか。メリットとデメリットを1時間で両方やるのは大変なのと、メリットを再確認するより、デメリットについて取り上げた方がよいと思う。
- 生徒が考える時間がもう少しあってもよかった。もう少し考える時間があると、

色々な視点が出ると思う。

7 消費者教育アドバイザーの総評

(1) 消費者教育アドバイザー

(公財) 消費者教育支援センター 総括主任研究員 中川 壮一

(2) 総評

① アクティブラーニングの手法とメディアの活用を図った授業

実践校では、タブレットやパソコンを普段から積極的に授業で活用しており、生徒の情報リテラシーの育成に熱心に取り組んでいる様子が伺えた。生徒も日常生活においてスマートフォンや SNS を活用しているが、インターネットショッピング（以下、ネット通販）の利用や認識については個人によって差があることから、今回はネット通販の利用やトラブル経験について事前にアンケートを行って実態の把握に努め、山口県や山口市の消費生活センターに寄せられた若者のネットトラブルや相談事例も参考にしながら授業案が練られていた。

ネット通販は、インターネットに接続できる環境があれば、様々な商品・サービスの購入・利用が基本的にいつでもどこでも可能であり、利便性が高い反面、「思っていたものと違う商品が届いた」「商品を受け取れなかった」などのトラブルが発生してしまうことがある。本実践の前時では、「エキスパート活動」を取り入れ、グループごとに情報通信白書などの資料を読み込み、トラブルが発生する原因や対策について各自が意欲的に調べられるような工夫を図っていた。さらに、「ジグソー学習」の手法を取り入れ、各自が調べたテーマ内容についてメンバー間で意見交換や情報共有を図るように促していた。本時では、DVD 映像（返品トラブルとチケット詐欺の例）を活用して、トラブル事例の解説と補足も図られていた。

ネット通販、ネットトラブルと言っても、生徒の関心やトラブル経験も様々であることから、どのような問題・観点についての学習班（エキスパート班）を構成するか、教員の悩むところである。オンラインゲームや SNS での課金、サクラサイト、プリカ詐欺といった最近のトラブル事例を取り上げて調べる活動も考えられるが、今回はネット通販利用者の年代別特徴やトラブルの原因・対処法などの資料をもとに、ネット通販の特徴（メリット・デメリット）の理解を図っていた。

② ネット通販の特徴と課題の理解を図る教材の充実と発展的な活動

アクティブラーニングを取り入れることで、生徒の主体的な活動が促され、問題意識をもとにした学習を深めることが期待される。実際、グループ活動の際には、生徒が自分の体験をもとに意見を付箋に書いて議論しあっていた。半面、順をおって知識・技能の習得を図れない面も出てくる。ネット通販の利用でおさえおきたいポイント（例えば、返品特約のことなど）については、教員や外部講師による解説や補足説明も必要であろう。生徒の提案・主張については、その根拠となる情報の信憑性（資料の出所など）についてももしっかり確認をしておきたいところである。

授業で使える教材についても検討を行ったが、実際のネット通販サイトは授業では利用しにくく、擬似体験サイトやシミュレーション教材は陳腐化が早く、最新の事情を反映した教材というのはかなり限られる状況にある。疑似体験ということであれば、学校で販売活動を体験する機会があれば、販売する立場で店舗販売と通信販売の違いについて考える機会もあろう。生徒の中に、販売サイトと通信販売の場（プラットフォーム）を提供するショッピングモールサイトを混同していた生徒も

いた。今後、新しい販売スタイルも登場し、越境取引も増加すると思われるだけに、ネット通販の動向や話題については、教員側も関心をもって押さえておきたい。

本実践ではネット通販の特徴を理解し、生徒が消費者の権利と責任を意識して、ネットショッピングをより安全で快適に使うための方法を提案するという設定がされているところが特徴的である。どのような権利と責任が関わるかを考え、消費者・企業・国（消費者行政）にどのように提案したらよいかについて考えるようワークシートの工夫が図られていた。家庭科での実践であるので、家庭の事情、重たい荷物がもてない（買い物が大変な）一人暮らしの高齢者、小さな子供のいる家庭といった様々な利用者を想定したサービスについても理解が図られていた。他教科、例えば公民科であれば、ネット通販を支える生産・流通の現場の工夫や仕組みについての理解を図ったり、消費者の安全・保護を図る仕組みについての理解を図ることに重点を置く展開が考えられる。

また、発展的な学習を家庭クラブの活動として行うことも可能である。地元の県・市の消費生活センターとも協力して、相談員によるアドバイスを反映した啓発用動画やポスターなどを作成したり、高校生が地元の企業やネット企業とコラボした活動をしていくことも考えられる。生徒が、ネット通販やフリマアプリを利用するだけでなく、安全で使いやすいアプリの開発や普及に力を発揮することもあると考えられるだけに、今後も生活に密着した課題として様々な場・関係者と意欲的に取り組んでいただきたい。